



学校だより

伸びゆく子

令和 7 年 4 月 30 日
横浜市立中沢小学校
5 月 号

誰かが見ていてくれることで

学校長 川又美貴子

先日は、授業参観、懇談会、学校説明会に多くの保護者の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。当日、準備のために校内を歩いていると、3年生の子どもたちが階段まで出てきて、「まだかな。」「早く来ないかな。」「とうちの方が来るのを心待ちにしている姿に出会いました。4年生のところでも、扉から顔を出したり、廊下でぴよぴよ跳ねたりしている姿が見られました。大好きなご家族に頑張っている姿を見てほしいのだなと、微笑ましく感じました。もちろん、学年が上がるにつれ、これほどわかりやすく態度には出さなくなりますが、それぞれいつもとは違う様子を見ると、きっと心の中は同じなのだろうな、と思います。

さて、ご家族に見てほしくて頑張れる子どもたちの姿と共に、小学校6年間の中では他にも背伸びをしながら成長しているなど感じられる場面があります。それは、上級生が下級生と一緒に活動する場面です。たとえば、この4月から登校班の班長として活動している5、6年生です。1年生の歩くペースを考えて、牛歩のようにゆっくりゆっくり歩いたり、ちょっと進んでは後ろを振り返りながら進んだり、「ああ、こんな風に気遣うことができるのだな。」「と、とても感心させられます。また、この時期は6年生が1年生の教室に朝の支度や給食の片付けなどの手伝いに行くことも多いのですが、「大丈夫だよ。ゆっくりでいいよ。」「これは、あそこに出すみたいだよ。」「と、とても優しく声をかけていました。決められた時間だけでなく、休み時間にも1年生の所へ行って一緒に遊んだり、困っていることを手伝ったりしていました。

つくづく、人に頼られることで人は頑張ることができるし、優しくなることもできるのだな、と感じます。もちろん、頼られすぎると負担になってしまうこともありますが、少なくとも小学校でのたてわり活動や、日々の関わりの中で、下級生のまっすぐな信頼を受けると、上級生は「必要とされているな。」「と感じることができ、それだけで「頑張らなきゃ。」「と努力することもできるのです。そして、頼られている上級生の笑顔は「私、頼りになるでしょ。」「と、とても誇らしげです。

学校では、子どもたちが「誰かが見ていてくれる。」「誰かの役に立っている。」「と安心したり、自信をもったりできるよう、これからもたてわり活動や異学年交流を積極的に取り入れていきます。ご家庭でも、ぜひ子どもたちが「頑張っているでしょ。」「と胸を張って言えるように、たくさん声をかけてあげてください。